i・report No.339

岩手河川国道事務所　一関出張所
一関市狐禅寺字石ノ瀬155-81
Tel：0191-23-2435
Fax：0191-23-6841
ichinoseki report 2017.9.13

～風化させない歴史とつなげる未来～
水防災フォーラム

平成29年9月9日（土）、岩手県一関市の一関文化センターにおいて、「カスリン・アイオン台風から70年 水防災フォーラム」を開催し、流域住民約700名が参加しました。

千葉貞子氏によるアイオン台風の体験談をはじめ作家の高崎哲郎氏や気象予報士の大隅智子氏による基調講演のほか、“「水防災意識社会」の再構築を考える”をテーマに5人のパネラーによる討論を実施。

パネルディスカッションでは、住民の水害に対する危機意識の低下を指摘したうえで、水害の恐怖や教訓を後世に語り継ぐことの重要性や頻発・激甚化する豪雨災害への備えと地域防災力の向上の必要性について理解を深めました。

●基調講演
「カスリーン・アイオン台風70年に思う」
高崎　哲郎氏（作家・土木史研究家）

「増え続ける台風・大雨災害と最新の防災情報について」～自分の命は自分で守る～
大隅　智子（気象予報士・防災士）

●パネルディスカッション
テーマ「水防災意識社会」の再構築を考える
コーディネーター
平山 健一氏（岩手大学名誉教授）
パネラー
佐藤 晄僖氏（一関商工会議所会頭）
辻山 慶治氏（中里まちづくり協議会会長）
大隅 智子氏（気象予報士・防災士）
八重樫 弘明氏（岩手県県土整備部河川港湾担当技監）
清水 晃氏　（東北地方整備局岩手河川国道事務所長）

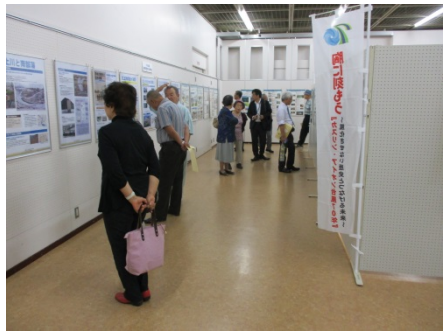
紙芝居を用いてアイオン台風の体験談を語る千葉貞子さん

激甚化する異常気象や地球温暖化の影響、最新の防災情報について講演する大隅氏

カスリン・アイオン台風からの復旧・復興に尽力した方々のエピソードや今後の一関市の発展へ期待を寄せる高崎氏

約700名の参加者が会場に詰めかけた

平山氏のコーディネートのもと、水防災意識社会の再構築について討論する5人のパネラー


一関の今昔写真や国、県、市による治水事業の歩みや施設の機能についてパネル展を開催

短時間の集中豪雨や局地的なゲリラ豪雨等、施設機能を上回る洪水の発生頻度が高まることが予測されています。
自分の身を守るにはどう行動すればいいのか、今一度考えてみましょう。

胸に刻もう　『カスリン・アイオン台風７０年』
～風化させない歴史とつなげる未来～